

幸区パラリンピック採火式について

1 目的・概要

東京 2020 パラリンピックの開催にあたり、神奈川県では県民の思いを聖火に込めるため、県内全市町村で聖火の元となる火を採る「採火式」を実施する。これに先立ち、川崎市では、それぞれの区の地域性を活かした「種火の採火」を各区で行い、7 区の火を等々力緑地に集めて「かわさきの火」をつくり（8/14）、県の集火式(8/15)に持参することとしており、幸区においても「種火の採火」を行う「幸区パラリンピック採火式」を実施する。

＜幸区パラリンピック採火式＞

日 時：8 月 9 日（月・祝） 場 所：幸区役所敷地内

参加者：町会や団体の代表者・関係者等

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、区民等を招待せず、関係者のみでの開催を予定
内 容：現在検討中

2 幸区パラリンピック採火式のねらい

「地域のつながり」・「世代間のつながり」を表現し、未来へとつないでいく

＜理由＞

幸区は町内会の加入率が一番高いなど地域のつながりが強い特徴があり、来年には区政 50 周年を迎える節目の年でもあるため。

＜コンセプト＞

- ・地縁団体、学生、企業など幸区に関わる幅広い主体や世代がイベントに関わること
- ・パラリンピックやかわさきパラムーブメントが目指す「多様性のある社会」を表すこと
- ・区の一体感を創出し、幸区への愛着心を醸成すること

3 実施概要

※コロナ禍で人数を制限する必要がある中で、より多くの人が取組に参加できるような手法を採用

①幅広い区民の「想い」が書かれた紙を収集

[集める「想い」のテーマ]

- ・『幸せを感じたこと』『幸せを感じることに』（区民・町会・学校等）
- ・かわさきパラムーブメントのロゴマークのぬり絵（未就学児等）
- ・かわさきパラムーブメントにつながる取組や想い（障がい者支援団体等）



②集めた紙を貼り合わせて、区民の「想い」がつながったパネルを製作

- ・サイズ：1.8m×1.8m
- ・9 枚制作（両面とも使用）【裏面参照】



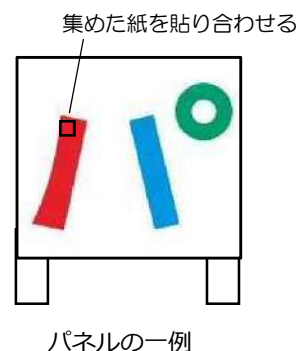
③製作したパネルを使用して、区民の「想い」を込めた火を作る「幸区の採火式」を実施

- ・詳細は検討中



④製作したパネルを継続的に活用

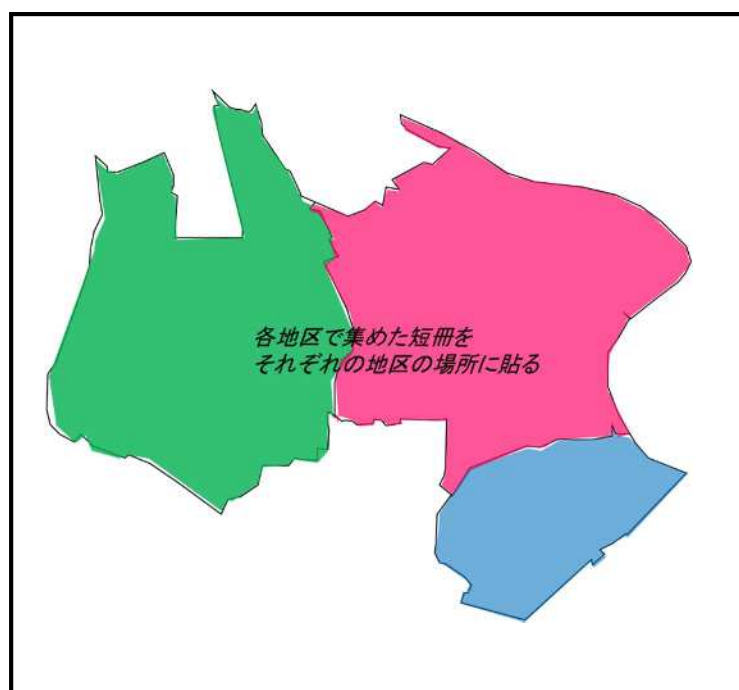
- ・多くの区民の「想い」が込められたパネルは幸区の未来につながるレガシー（遺産）として、今後も継続的に展示・活用する。
（イベント等での展示、バックパネルとしての活用など）



短冊で製作するパネル（表面）

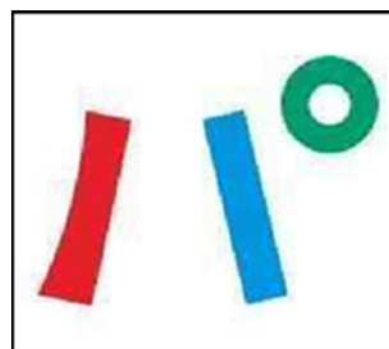
	デザイン	コンセプト	ねらい・意図
①	幸区ロゴマーク	区民をつなぐ	区民の深いつながりを表現
②	区政 50 周年 デザイン	過去と未来をつなぐ	2022 年の区政 50 周年に向けて、過去から未来へのつながりを表現
③	川崎市ロゴマーク	未来へつなぐ (川崎の新しい未来)	2024 年の市政 100 周年に向けて、新しい川崎の未来へと可能性を広げていくことを表現
④	SDGs カラーホイール	未来へつなぐ (SDGs が達成された未来)	SDGs (持続可能な開発目標) が達成されている社会を表現
⑤	studio FLAT による デザイン	未来へつなぐ (多様性が理解される未来)	パラムーブメントに示される文化芸術の親しみを深度化するため多様性を表現
⑥	ハートマーク (多言語による 「幸せ」の文字)	世界をつなぐ	各国の「幸せ」を意味する言語を並べることで、多様性にあふれる社会を表現
⑦	幸区の地図	地域をつなぐ	区内の地域がつながる一体感を表現
⑧	区の木・区の花 ロゴマーク	緑でつなぐ	区への親しみや人と自然のつながりを表現
⑨	幸区の魅力	魅力でつなぐ	区を魅力的に思うことで愛着が高まり、地域とのつながりが生まれていくことを表現

パネルデザインイメージ



1.8m

(裏面) 共通デザイン



かわさきパラムーブメントロゴ

1.8m